

一緒に考えて いきましょう



愛知県立岡崎盲学校長
福山 勇治 氏

教育随想

本年度より、盲学校教員の通級による指導が始まりました。その目的は、小・中学校の通常の学級に在籍する視覚障害のある児童生徒に対して、各教科等の授業は通常の学級で行い、障害の状態に応じて盲学校教員の通級による指導を行うことにより、障害の状態の改善又は克服をするために必要な知識技能等を養い、心身の調和的発達を基盤を培うことにあります。本校は三河地区を担当します。対象となる児童生徒の支援充実に向け役割を精一杯果たします。

さて、本校では地域の保育園や小・中学校、高等学校の御理解を得て、交流及び共同学習を行っています。中には三十八年の伝統を誇る取組もあります。障害のある子供の自立と社会参加を促進するとともに、社会を構成する様々な人々と一緒に支え合って生きていくことを学び合える絶好の機会です。共生社会の形成にもつながるこの尊い活動が、末永く続けられることを切に願います。

ところで、本年四月一日に施行されました障害者差別解消法に關しまして、愛知県障害者差別解消推進条例の基本理念には「障害を理由とする差別の多くが障害者に対する理解の不足から生じていること及び誰もが障害を有することとなる可能性があることを踏まえ、全ての県民が障害についての知識及び理解を深める必要があること」とあります。特別な配慮を必要とする子供に対して合理的配慮をしない、対応しないままではないことは差別にあたり、これまでにない法的義務が生じます。しかし、合理的配慮は個々の特性に応じた手助けや補助手段の提供、ルールや設備の変更

(ふくやま ゆうじ)



平成 28 年 5 月 1 日

5 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
愛知県立岡崎盲学校長
福山 勇治氏
- この人に聞く…………… 2
岡崎市民俳句会代表幹事
富田 征也氏
- 羅 針 盤 …………… 2
前生徒指導指導員
兵藤 輝徳
- ふれあい…………… 3
岩津中 山本 梓
- 特 集…………… 4
ほくたちの街に
最新サービスエリアができた!
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
主体的に学ぶ算数の授業
(昭和 58 年)
- この本を…………… 8



俳句がつなぐ縁

岡崎市民俳句会代表幹事

富田 征也 氏

窓全てあけて五月を入れにけり

孫を抱き、窓を開け放った二階のベランダに出る。新緑のすがすがしさを乗せた風が五月の香りを運ぶ。孫と共に鯉のぼりがはためくのを楽しみ、詠んだ一句だ。この句を含めた三句が、俳壇の最有力誌として名高い『ホトトギス』の、一三〇〇号記念句集巻頭句に選ばれた。

「私が俳句を始めて、さして歳月がたつてもいせんでしたから、身に余る光栄に、大変驚きました。」

富田さんの俳句との出会いは、仕事

が定年を迎えてからであった。「学生時代、そして就職してからも、俳句とは全く縁のない生活をしていました。仕事が充実しているなか、五十歳を迎え、将来の人生設計を考えたときに、妻の多趣味で生き生き

とした姿を見て、自分も何か趣味を持ちたいと考えました。学生時代にワンダーフォーゲル部に在籍していたこともあり、山登りなら幅広い活動ができると思い、始めました。」

多くの山に登ると同時に、山行記を機関紙に寄せるようになった。文章を書くにつれ、見たままでなく自分の表現がしたい、言葉を豊かにしたいと考えた富田さんが目を留めたのは俳句だった。

「定年を待ち、かねてから希望していた市民俳句講座を受けました。俳句の奥の深さ、受講者の方々の勉強熱心さにシヨックを受けました。時間があれば図書館に通い詰め、先人の作品や俳句に関する本を何度も繰り返し読みました。」

講座修了後も俳句の魅力に引き込まれ、仲間と自主的に俳句作りを続けた。

「俳句は、紙と鉛筆があればどこでもできます。俳句を始めて、自然を見る目が全く変わりました。今まで見過ごしていたことを丁寧に観察するようにになりました。春夏秋冬、同じ場所の景色でも全く違う感動があります。また、私の場合、俳句を始めたおかげで多くの方々のお付き合いが広がりました。」

講座で教わった先生との縁もあり、数年後、「ホトトギス」の会員となる。

「俳句作りの要諦は『多く詠み、多く作り、多く捨てる』と心得ています。数多くの句を作っても、先人の句には及ばず、自分の納得できる作品

は一握りです。」

現在、二十近い結社が集う岡崎市民俳句会の代表として、市民が俳句を学ぶ機会を増やす働きかけをしている。小・中学校での俳句講座もその一つだ。

「世のため、人のために尽くせることは何だろうかと考えたとき、子供たちの姿が思い浮かびました。そして、私の気持ちを理解し、同調してくださる方もいて、『小学生・中学生の優しい心を養う俳句講座』の開設となりました。子供たちと共に俳句を楽しむ中で、子供たちの温かい心を感じ、心を打たれます。」

平成二十五年から始まったこの活動で、年間二十校ほどの学校に足を運ぶ。「現在、市民の方の俳句を学ぶ機会が少なくなってきました。また、各句会とも高齢化が進んでいます。数十年前後、この講座のことを思い出して、句作りを始めてくれる人がいたらうれしいですね。」

富田さんの俳句への思いによって、今日もまた新たな縁がつながっていく。



氏名 富田 征也
生年月日 昭和十六年十一月十五日
住所 岡崎市竜美西



寄り添い見守る先に

前生徒指導指導員

兵藤 輝徳

A男の生活が乱れ始めたのは、中学二年の夏休みだった。きっかけは、先輩との交際。登校日数が減り始め、授業に身が入らない日々が続いた。三年に進級後も落ち着かず、授業をエスケープするだけでなく、校舎内を徘徊するようにもなった。担任のB先生をはじめ、多くの職員で、できる限り目を離さぬように、彼の行動を見守り、支え続けた。

文化祭を終えたある日、A男が生活ノートに「先生、俺の進路、今からでも間に合うかなあ」という一文を書いてきた。とっさに、A男の揺れる思いを感じ取ったB先生は、急いで家庭訪問をした。今つかんだこのA男の手を、絶対に離すまい、という思いで、相談にのったり、漢字や計算問題を教えたりし始めた。しか



生活ノートに綴る思い

岩津中 山本 梓

「うるせえ。どうでもいいだろ、俺のことなんて。」

A男はいつも、私の目を見ずに言った。学校生活のいろいろな場面でも、彼の態度は、無気力そのものだった。「ねえ、おなかが痛い。大丈夫。」

今日も授業中、私は机に伏せるA男を起こす。私をじっと見るA男。初めは彼が何を考えているか分からなかったが、次第に、彼が認められた経験の少ない生徒だということに気づいた。何とか褒めるきっかけを見つけた。私は声を掛け続けた。

六月のある日、今まで一度も提出したことなかった生活ノートを、突然A男が出した。前日、ふとした折に「私はA男が好きだから」と言ったことがきっかけだったのかもしれない。「今日も元気なかけ声が響き渡るグラウンドで、野球部の僕は……」。驚くほど読みやすく美しい

文に感動した私は、「素敵な文をありがとう。ぜひ続きが読みたいな。お願い」と言って、彼に生活ノートを手渡した。受け取りながらA男は、驚いたような顔で私を見つめた。それからA男は毎日出すようになった。友達のこと、自分のこと。友達についてはとても否定的だった。その都度、「私は君に出会えてよかった。この生活ノートを読むのが楽しみだよ」と声を掛け、返事を書き続けた。

体育大会三日前、事件が起きた。三年生だけが舞うことのできる「岩津の舞」に対し、生徒が一人ずつ思いを語っていたときのことだった。A男の番が来ると彼は立ち上がり、「俺はお前らと一緒にそんなことやりたいくないんだよ。ばかばかしい」とクラスの仲間をにらみつけながら叫んだのだ。彼は、以前からみんなと同じことをするのを嫌っていた。生活ノートで少しずつつながりができてきたと思っていたA男のこの態度に、私はとっさに何も言えなかった。何とか場をとりなし、翌日の生活ノートに望みを託した。

しかし次の朝、生活ノートは出されなかった。「書いてきた」と尋ねるとA男は首を横に振った。だが、彼の表情は、どこか申し訳なさそうに見えた。「書いてなくてもいいか

ら貸してね」とたのむと、そこにはいつもとは全く違う殴り書きで記された文があった。「俺は最低なやつだ。こんな俺は消えてしまえばいい」。私はそのノートに思いを綴った。「そんな風に自分を悪く言うのは、昨日の自分を反省しているから。えらいよ、A男は。ちゃんと前へ進もうとしている……」苦しみを分かっ

てあげたいという思いがこみ上げ、文は六ページにも達した。翌朝、A男は生活ノートを私に手渡した。自分が口走ったことに対する後悔や分かっていたもできないという葛藤、友達に嫌われるに違いないという不安などの言葉でいっぱい

のノートだった。A男が自分の思いを素直に書いてくれたことがたまらなくうれしく、私は希望を感じた。体育大会の朝、A男の姿はなかった。しかし家まで迎えに行ったクラスの仲間の「お前がいて初めて三の二なんだ。一緒にやろう」という言葉に背中を押されて登校し、「岩津の舞」に参加することができた。

それからA男の態度は一進一退で、前向きな姿はなかなか見られなかった。しかし、「大人は嫌いだったけど、あなたは信じられる」というA男の生活ノートの中の言葉が、最後まで私を奮い立たせてくれた。

三月。A男は満面の笑みを浮かべ、中学校を巣立っていった。

し、A男は、先輩との関係をなかなか断ち切れず、乱れた生活を元に戻せないでいた。

三学期になり、落ち着きを取り戻し始めたA男が「夜、学校で勉強したい」と申し出た。陰には、B先生のあきらめず掛け続けた声があった。先生は、夜、一緒に学習できる級友を募ったり、保護者に送迎の協力を依頼したりした。毎日、一、二時間ほどの時間を確保して学習を進めていくうちに、その姿を見た周囲の先生たちも、支援しようとした。

A男は、困難な家庭環境にあるという。そのなかで、進路を考え努力する姿に、全職員が共通理解を図り、学校がチームとなって、目をかけ、声をかけていったのである。

様々な状況下の子供たちは、たった一つのボタンのかけ違いで、今、進むべき道を踏みはずしてしまうことがある。そこに必要なのは、発信された小さなサインを「手を離さない」という思いで受け止め、チャンスとして生かす教師集団である。

二月。A男が志望校に合格したとの連絡を受けたとき、私の中で「チーム・学校」の思いがいっそう強くなった。



ぼくたちの街に最新サービスエリアが できた！

新東名高速道路の開通を祝って演奏する新香山中吹奏楽部

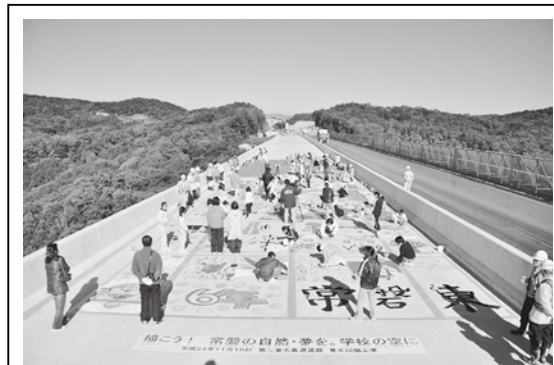


▲ 開通記念に制作され、現在も飾られている看板（新香山中）

新東名の開通は、子供たちが岡崎の良さを考えるよい機会となる。子供たちは、新東名を通して、地域の人やもの、こととのつながりを学ぶことができる。新東名や岡崎サービスエリアを、教材開発の視点で見直し、未来の岡崎を築く子供たちの育成に生かしていきたい。

風薫る五月。岡崎市東部を貫く新東名高速道路（以下、「新東名」）が開通して三か月を迎えようとしている。東名高速道路（以下、「東名」）の慢性的な渋滞が緩和されるだけではなく、大規模災害発生時の早期復旧への貢献、地域の観光や産業の活性化などの効果が期待されている。

岡崎サービスエリア（NEOPASA岡崎・岡崎SA）の完成も話題を呼んだ。東海三県下で最大規模の上下線集約型の商業施設である。上り線のコンセプトが「岡崎宿」、下り線は「森のエントランス」で、地域に密着した、魅力的なサービスエリアの完成となった。これらは、歴史や環境など、さまざまな視点から地域を見直せる魅力的な教材の宝庫とも言える。



▲ 「路面お絵かき会」



▲ 新東名の土手での植樹

「高速道路上に直接、絵を描くことができ、楽しかったです。描いた絵はもう見えないけれど、小学生当時は貴重な経験ができて、よい思い出になりました。」（平成27年度・常磐中3年生徒の感想）

工事中の関連行事（常磐東小）

新東名が通る常磐東小学区で、完成に至るまで進められてきた数々の活動は、教科学習や総合的な学習、道徳の時間など、どこからでも切り込める教材だ。

《地域の良さを見直す教材開発》

岡崎の魅力を発信するための工夫



▲「岡崎匠の会」の商品
花火や三河木綿、宮崎茶などの地域の特産品は、作り手の思いや生き様に焦点を当てることのできる、魅力的な教材だ。



▲「味噌活認定商品」
八丁味噌を使った独自メニューの開発は、伝統を重んじ、郷土愛を育みつつ、食文化を創造する楽しい学習の手本だ。



▲石彫「絆のテーブル」と「森の動物たち」
テーブルに並んだ作品「森の動物たち」が、表現の楽しさや創作の喜びを語りかける。

多くの来場者に、岡崎SA周辺の地域、特に岡崎をPRできるような、地域に密着した様々な企画を進めています。「婚活」をもじって「味噌活」を考えました。岡崎に根づく伝統と、時代の流行を組み合わせて、来場者に興味をもってもらいたいですね。学校からの社会見学も可能です。地域とタイアップして、今後さらに魅力あふれるサービスエリアにしていきたいと思えます。



中日本エクス株式会社名古屋支店
NEOPASA岡崎オフィス支配人

本木 英人 氏

地域に密着し、岡崎の魅力をPRできるサービスエリアに

地域の活性化をめざす生徒会の取り組み（額田中）

生徒市議会提案

「額田の『木づかい』で地元の山に『気づかい』を」（額田中）



▲間伐材を利用したベンチ制作過程を紹介する看板（岡崎SA）
第43回「生徒市議会」を受けて、額田中生徒会は、林業が盛んな地域性を活かし、間伐材を使ってもものづくりをする「木づかい運動」を推進している。

▶内覧会に参加
間伐材のベンチは上り線側の施設の広場周辺に設置されている。



「ぜひ、このサービスエリアを利用する人がベンチに座ることで、間伐材の温かみを知り、森林環境を守るきっかけに思っています。」
（額田中3年生徒・除幕式挨拶の一部）

▶高速道路でウオーキング
景色を楽しみながら汗を流して体力づくりをする。



街の発展を願う子供たち（奥殿小）

「新しいSAにたくさんの方が来て、まちが発展してくれたい」2月14日（日）朝日新聞（奥殿小6年児童の感想）



● 教育関係機関だより

◆ 教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十四か所の教科書センターで、開催される。

書に対する意見や要望を投稿することができ、教科書について広く意見を聞く場となっている。

○ 展示会場

- （岡崎教科書センター）
- ・ 岡崎市中央図書館
- ・ 岡崎市康生通西四一七十一

○ 展示期間

平成二十八年六月十日（金）～七月四日（月）
※休館日を除く

○ 展示教科書

岡崎地区の教科書センターは、岡崎市中央図書館内にある。展示会も、中央図書館で行われる。展示会場には、投書箱が用意されている。教科書別の教科「道徳」の教科書採

扱は小学校が平成二十九年、中学校が平成三十年になる。また、教科書採扱は小学校が平成三十年、中学校は平成三十年の予定である。使用開始は、それぞれ採扱の次の年になる。

現教科書は、今年度を含め、小学校は三年、中学校は四年使用される予定である。

● 表彰

◆ 日本ジュニア管打楽器コンクール全国大会

- 中学生の部 ホルン
- 金賞 竜海中 鈴木順子

◆ 中部日本個人・重奏コンテンツト本大会

- 個人の部（ユーフォニアム）
- 金賞 矢作北中 勝野友梨
- 重奏の部
- 金賞・実行委員長賞 北中 金管八重奏

◆ 愛知県ウォーカルアンサンブルコンテスト

- 中学校部門 A班
- 庶務 田中 俊二(大樹寺小)
- 銀賞 六ツ美北中学校
- 庶務 永田 勲(竜南中)

○ 中学校部門 B班

- 庶務補佐 杉田 吉男(六ツ美中)
- 銀賞 常磐中学校
- 會計 福田 貴子(本宿小)

◆ 東海ブロック中学生バレー

- ボール新人大会
- 男子
- 評議員 高橋由美子(山中小)
- 準優勝 矢作北中学校
- 天野 良広(藤川小)

◆ 子どもの読書活動優秀実践校

- 文部科学大臣表彰
- 菅沼 健(夏山小)

◆ 平成27年度全国優良少年消防クラブ表彰

- 根石小学校
- 消防長官賞 岡崎小学校

● 平成二十八年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

- | | | |
|-----|--------------|------------|
| 会長 | 澤田 祥明(六美北中) | 川口 厚(甲山中) |
| 副会長 | 鈴木 実俊(福岡小) | 戸澤 剛(常磐中) |
| | 加藤 政幸(翔南中) | 浦野 公一(額田中) |
| | 岡部 克彦(六ツ美北中) | 加藤 勝巳(竜海中) |
| 顧問 | 水野 昌孝(竜美丘小) | 都筑 祐一(葵 中) |

〈小学校長会〉

会長 鈴木 実俊(福岡小)
副会長 金指由香里(小豆坂小)

会計監査 高橋由美子(山中小)
庶務 天野 良広(藤川小)

会計 山本 知子(緑丘小)
会計補佐 福田 貴子(本宿小)

〈中学校長会〉
会長 加藤 政幸(翔南中)
副会長 岡部 克彦(六ッ美北中)

会計監査 永田 勲(竜南中)
庶務 宇都宮森和(河合中)

會計 杉田 吉男(六ッ美中)
會計補佐 加藤 勝巳(竜海中)

〈専門委員会会長〉
法制 荻野 款司(北 中)
教育条件 荻野 卓寛(井田小)

学校経営 加藤 勝巳(竜海中)
進路 中村 公治(東海中)

保体 小田 昌男(岡崎小)
福安 北村 文啓(形埜小)

給食 長坂 洋人(岩津中)
生徒指導 都筑 祐一(葵 中)

特別支援 酒井 洋一(矢作北中)
広報 福田 貴子(本宿小)

● 平成二十八年特別委員会

平成二十八年度は以下の十一委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

・月報「岡崎の教育」編集委員会
長 大西 和夫(六ッ美南中)
副 牧野 守(恵田小)

・教員の研修に関する委員会
長 清水 範彦(美合小)
副 北村 文啓(形埜小)

・情報教育推進委員会
長 高須 亮平(梅園小)
副 小田 昌男(岡崎小)

・郷土読本編集委員会
長 本間 茂夫(岩津小)
副 名倉 嘉章(新香山小)

・授業改善委員会
長 蜂須賀 渉(男川小)
副 小田 英宣(六ッ美南中)

● 平成二十八年研究発表校

今年度の研究発表校は、市委嘱の発表校が三校、自主発表校が四校である。

○市委嘱研究発表
・三島小学校
十月五日(水)

「思考力・判断力を伸ばす社会科・生活科の授業―地域教材の開発と思考・判断の「すべ」を活用した学習指導を通して―」

・山中小学校
十月二十六日(水)

「生活に生きて働く『書く力』の育成―『書写力』『語彙力』『活用力』を基盤とした書く授業を目指して―」

・小豆坂小学校
十一月十八日(金)

● 平成二十八年度学校訪問

「ESDの視点に立ち、算数を楽しむ子供を育む岡崎・連尺教育―コミュニケーション能力を思考力・実践力へ―」

○岡崎市教育委員訪問
・竜谷小学校 六月二十七日
・新香山中学校 九月二十九日

・六ッ美北郡小学校 十月六日
・岩津中学校 十月十三日
・矢作東小学校 十月三十一日

・形埜小学校 十一月十日
・河合中学校 十一月十四日
・六ッ美北中学校 十一月二十四日

・広幡幼稚園 一月十九日
・梅園小学校 一月三十日

○指導員合同訪問
・藤川小学校 六月十六日
・生平小学校 六月十六日

・葵中学校
十一月九日(水)

・連尺小学校
二月八日(水)

・藤川小学校
十月十九日(水)

・小豆坂小学校
十一月十八日(金)

・北中学校
十一月二十四日

・福岡中学校
十一月二十四日

・北中学校
十一月二十四日

※その他に主事訪問を予定

・カ
ツ
ト
竜
海
中
堀
口
宏
章

主体的に学ぶ算数の授業 (昭和58年)

写真提供：岩津小学校

写真は、算数の授業の一場面である。子供たちは、円や三角形、四角形の板を手にして、その面積を比べ合っている。この授業では、体育館にボールや砂の入ったバケツ、教科書などを並べて、子供は手に取ったり、比べたりしながら、「重さ」「大きさ」「長さ」の学習をした。そこには、具体物に見入り、主体的に考えを深める子供たちの姿があった。

実物を用いたり、体験を交えたりして進めていく学習が、概念の形成や思考・判断を促すうえで効果的であることは、今日でも変わらない。

教材研究を重ね、魅力的な授業づくり、今日も汗を流したい。



東名高速道路の渋滞緩和や都市圏の連携強化が期待される新東名高速道路。奥殿陣屋を越えて、川沿いに東へ東へと車を走らせ、小さなカーブを曲がった先には、「最新の景色」が待っていた。

この「景色」を造りあげた人間のことを思う。その人間を育てた学校、家庭、地域。教職の重みを、今またここで、心に刻んだ。

と ホ と ツ

阜 月



(三島小 こいのぼり集会 (H27))

時鳥(ほととぎす)は、古来、夏の鳥として親しまれ、数多くの詩歌に詠まれてきた。なかでも、鳴かない時鳥を題材に、三人の戦国武将を十七文字で詠みあげた三つの句には、誰もが唸る。俳句講座を受講し、そのおもしろさを味わった子供たちは、対象のとらえ方、言葉の選び方といった俳句独特の感性を、将来への財産として得た。

通学団での登校時、教室とは違う顔を見せる高学年児童に驚くことがある。おとなしい印象だった子が、進んで一年生の手を引き、笑わせようと懸命に話しかけている。彼のもう一方の手には、一年生の手提げかばんが握られていた。優しい上級生が待っている。連休明けも笑顔の一年生は、元気に集合場所に向かうだろう。



* ANAが大切にしている習慣 田口 昭彦
扶桑社新書 ￥760

心に残った一文
人間が機械に勝るほとんど唯一の能力、それは、考える力です。

ANAは、人材を宝と考え、会社ではなく「TEAM」として、「人財」の育成に努めている。チームづくりの3要素の1つに「リーダーシップ」を挙げ、リーダーは「人財づくり」の要となる。メンバー各人に役割と責任を与え、自ら考え行動できるよう育てている。チーム内に不要な人を作らないよう声をかけ、個々を把握し、伸ばし、能力に適した仕事を任せることで、チームとしての成果を上げるよう努めている。本書は、学年、学級経営についても参考になる考え方が示された一冊である。

* 必ず書ける「3つが基本」の文章術 近藤 勝重
幻冬舎新書 ￥780
* 名将 真田幸村 童門 冬二
成美堂出版 ￥546
* ローマ法王に米を食べさせた男 高野 誠鮮
講談社 ￥890

常磐東小 近藤 嗣郎